

カツオ 大西洋

Skipjack *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 100 cm・15 kg
- 寿命：6 歳以上
- 性成熟年齢：満 1 歳ですべて成熟
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯～温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海鳥類等

利用・用途

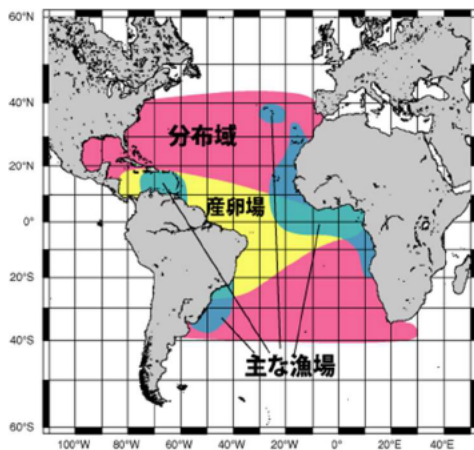
缶詰等の加工品

漁業の特徴

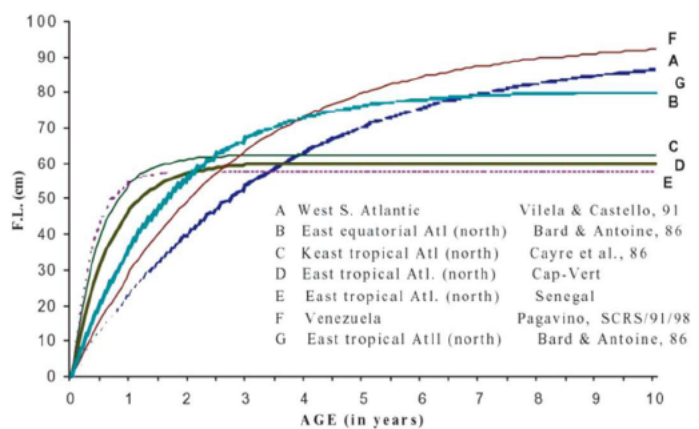
主要な漁業は、東部大西洋ではスペインのまき網、ガーナ及びスペイン等の竿釣り、西部大西洋ではブラジル等の竿釣り、ベネズエラによるまき網である。ひき縄やはえ縄でもわずかに漁獲される。東部大西洋では、2011 年以降にパナマでの漁獲量が増加し、ポルトガルよりも多くなった。主な漁場は、アフリカ西岸ギニア湾の赤道を中心とした熱帯域～北西岸モーリタニア沖のまき網漁場と、ブラジル南東岸沖の竿釣り漁場である。まき網は、1991 年から人工浮き漁礁 (FAD) 操業が本格化し、漁獲量が増大した。日本は大西洋でカツオを主対象とした漁業を現在行っておらず、はえ縄で大型のカツオがわずかに混獲されるのみである。

漁獲の動向

年間漁獲量は 1960 年代には 4 千～5 万トン、1970 年代には約 5 万～約 12 万トン、1980 年代には約 11 万～約 16 万トンで推移した。まき網の FAD 操業開始により、1991 年約 22 万トン、1993 年の約 21 万トンがピークで、1995 年から 2000 年代にかけては約 12 万～約 18 万トンで推移した。2011 年以降、漁獲量は 20 万トンを超えるようになり、2023 年には約 24.9 万トンを記録した。日本は、1980 年代前半まで東部大西洋で竿釣り操業を行い、1976～1981 年には約 1 万～約 2 万トンを漁獲したが、現在は行われていない。



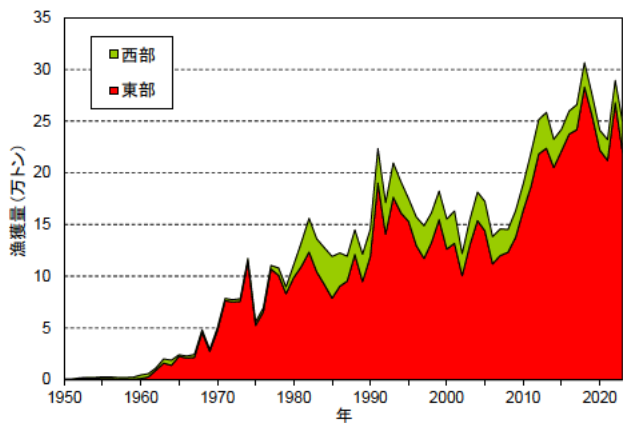
大西洋のカツオの分布域、産卵場及び主な漁場



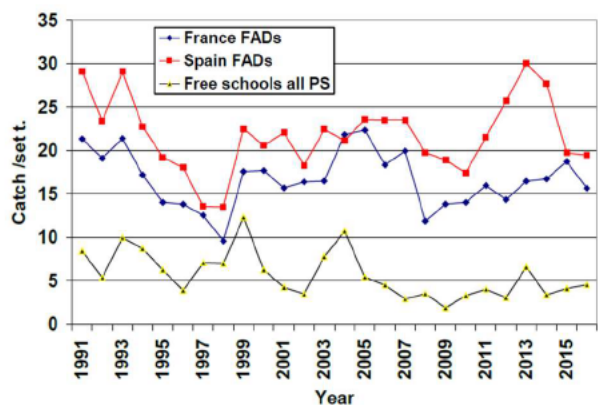
大西洋のカツオの成長曲線

A～G の曲線は各海域で報告されたカツオの成長を示す。

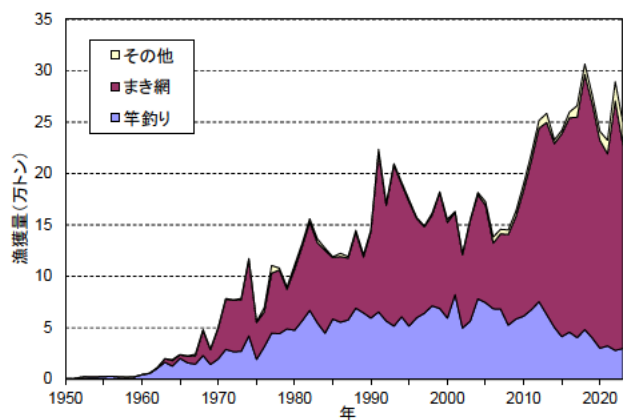
資源状態
<p>2022年にICCATの科学委員会(SCRS)において資源評価が実施された。大西洋における本種の漁業・生物学的特徴を考慮して東部・西部大西洋の2海域に区分して資源評価を実施した。東部大西洋ではプロダクションモデル(JABBA)及び年齢構成モデル(SS3)、西部大西洋ではSS3を用いて資源評価を実施した。これらのモデルから東部大西洋ではB_{2020}/B_{MSY}の中央値は1.60(0.50~5.79)、MSYが216,617トン、F_{2020}/F_{MSY}の中央値は0.63(0.18~2.35)となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもないと判断された。西部大西洋ではB_{2020}/B_{MSY}の中央値は1.60(0.90~2.87)、MSYが35,277トン、F_{2020}/F_{MSY}の中央値は0.41(0.19~0.89)となり、資源状態は乱獲状態でもなく過剰漁獲でもないと判断された。</p>
管理方策
<p>2014年11月のICCAT年次会合において、データ不足に起因する資源評価の不確実性がSCRSから指摘されたことを踏まえ、既存の熱帯まぐろ保存管理措置に含める形で、管理方策が初めて設定されることとなった。それにより、カツオを漁獲する漁船のICCATへの登録、FAD操業の禁漁区・禁漁期等が設定されることとなった。FAD操業の禁漁区・禁漁期は新たなものが2015年に決定され、2017年より1~2月のアフリカ沿岸域~西経20度、南緯4度~北緯5度の範囲で適用することとなった。2019年のICCAT年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、2020年には1~2月の2か月間、2021年には1~3月の3か月間、大西洋全体においてFAD操業の禁止を決定した。FAD数は、1隻当たり一度に350基(2020年)及び300基(2021年)までとなった。2021年のICCAT年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022年においては1月1日~3月13日の72日間のFAD禁漁を決定した(その後2024年まで延長)。2024年のICCAT年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置の改正案が採択され、FAD禁漁は2025年のみ3月17日~4月30日の45日間、2026年以降については2025年に検討、また、FAD設置数上限は現行300基から2026年~2027年に288個へ削減することとなった。</p>



大西洋におけるカツオの海域別漁獲量の推移(1950~2023年)

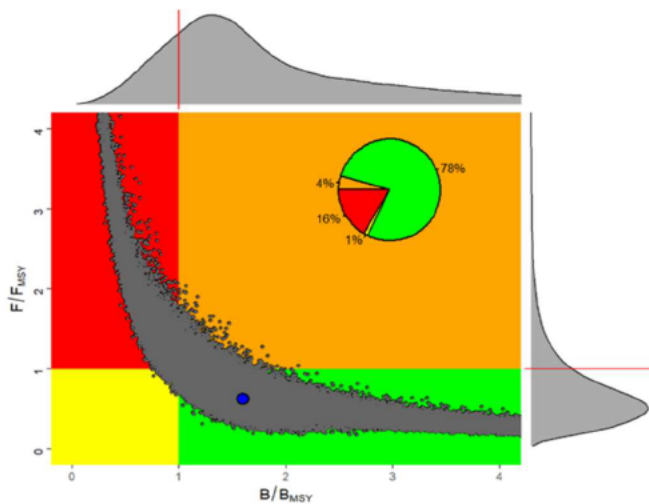


東部大西洋におけるまき網によるカツオ漁獲量(1操業あたり漁獲量)の推移(1991~2016年)
 France FADs: フランスのまき網船・FAD操業、
 Spain FADs: スペイン・その他のまき網によるFAD操業、
 Free schools all PS: まき網による素群れ操業。

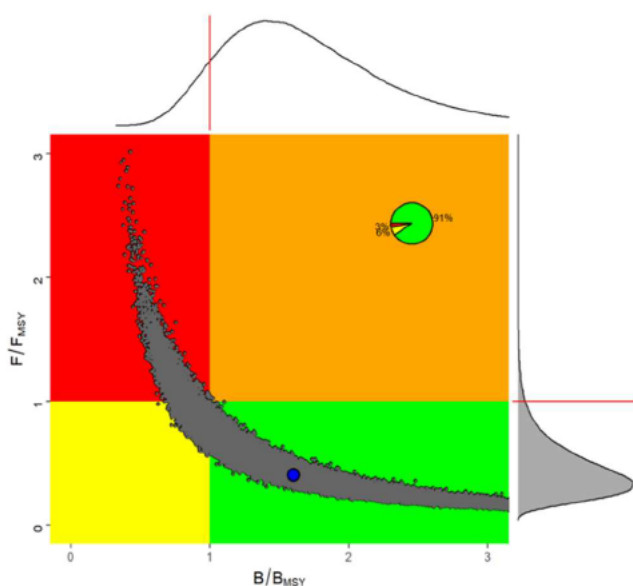


大西洋におけるカツオの漁法別漁獲量の推移(1950~2023年)

カツオ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	23.2万～28.9万トン 最近（2023）年：24.9万トン 平均：25.8万トン（2019～2023年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	1.9～4.8トン 最近（2023）年：4.2トン 平均：3.6トン（2019～2023年）
資源評価の方法	プロダクションモデル（JABBA） 年齢構成モデル（SS3）
資源の状態 （資源評価結果）	$B_{2020} / B_{MSY} = 1.60$ (0.50～5.79)（東部） $F_{2020} / F_{MSY} = 0.63$ (0.18～2.35)（東部） $B_{2020} / B_{MSY} = 1.60$ (0.90～2.87)（西部） $F_{2020} / F_{MSY} = 0.41$ (0.19～0.89)（西部） 東部西部ともに2020年の資源状態は、 過剰漁獲及び乱獲状態ではない
管理目標	MSY (216,617トン（東部）) MSY (35,277トン（西部）)
管理措置	漁船登録 FAD 操業の禁漁期、FAD 数制限
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2022年
次回の資源評価年	2025年（予定）



東部大西洋のカツオにおける
最新年（2020年）の B / B_{MSY} と F / F_{MSY} の水準
青丸は中央値を表す。



西部大西洋のカツオにおける
最新年（2020年）の B / B_{MSY} と F / F_{MSY} の水準
青丸は中央値を表す。